



のぞみ 希 望

学校ホームページアドレス <http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/sugita/> TEL771-0649

大雪の日に思うこと～感謝・ふるさと～

副校長 鈴木 和枝

「思ったよりも雪深くはないな・・・。」

そう思いながら、それでも誤って滑ることがないように一步一步長靴を履いた足を進めた1月23日の朝でした。

前日は4年ぶりの大雪警報の発令、横浜でも16センチの積雪と報じられました。「明日の朝は雪で門を開けられない。玄関の階段も降りられないに違いない。」と思い、冷たい風の中スコップを手に、おぼつかない手つきで雪を掻きました。あまりの雪の多さと重さに、「明日はこの中を駆まで歩くのか。」と思うと正直気が重くなった前夜でした。

しばらくすると急坂にさしかかりました。その坂は、以前凍った路面に足をとられ転倒した場所でした。頭の中にそのときの記憶がよみがえってきたその瞬間。驚きました。急坂の上から下までの雪が、ガードレールの中だけきれいになっているのです。上から下まで50メートルぐらいいはあるのでしょうか。その部分の雪がしっかりとどけられ、安心して歩くことができるようになっているのです。きっとどなたかが、あの強い風雪の中雪掻きをしてくださったに違いないのです。「ありがたい。」という気持ちでいっぱいになると同時に、私は小学校時代を思い出しました。

私が小学校時代を過ごした地は雪が多く、体育の授業にはスケートもスキー教室もありました。どちらも学校の先生だけではなく、滑り方や転び方を教えお世話をしてくださる方がいたことをよく覚えています。また、今ぐらいの時期になると、家から少しバスで行った地域では「かまくら祭り」が行われ、雪で造られたたくさんの大小様々のかまくらの中に入りその暖かさに驚いたり、ほっこりとした気持ちでお餅を食べたり、雪明りの中に灯が灯る幻想的な風景を楽しんだりしました。そこにもやはり、地域のボランティアと思われる人々が、明かりを手に車や人々を誘導していたことを、ぼんやりとですが覚えています。

子ども会の行事では、「芋煮会」や「サツマイモ掘り」などに連れて行っていただきました。サツマイモ掘りをしたときには、山形の山寺の方まで行ったのですが、長い長い石段を上ることや大きなサツマイモを土の中から掘り出すことなど、小さかった私はその多くのことを同行している大人の方々に手伝っていただきました。

数えきれない多くの方にたくさん教えてもらったり、助けていただいたりした、忘れられない小学生時代でした。横浜に引っ越すことが決まり、明日の朝には特急列車に乗るという最後の晩には、荷物が何一つ残っていない我が家に、近所の方が太巻き寿司をどっさり作ってわざわざ届けてくださいました。きっと、夕飯の支度ができずに困っているだろうと思ってくださったのでしょう。

私にとっては、小学校時代を過ごしたふるすとは、今も心の中でずっと忘れられない地となっています。そして、それはそこに温かい人のぬくもりや人と人とのつながりがあったからなのだと確信しています。

以前、あるテレビ番組で、東日本大震災で被災した地に住む中学生が、同じく被災して家族を失い、住み慣れた家も失い、仮設住宅に移った一人暮らしのお年寄りの方々とふれ合っていく様子が描かれていました。なかなか外出せず、ほとんどを家の中で暮らしているその姿を案じ、「自分たちに何かできることはないだろうか」と考えラジオ体操のカードを手作りし、体操に誘う・・・その中でお年寄りも中学生も笑顔になっていくのです。その中学生は「今までお世話になってきた方に感謝の気持ちとして何か恩返しはできないだろうか」と考えたということでした。

人の心を動かし「行動すること」へと導くものの一つに「相手を思いつなかりを大切にする気持ち」や「感謝の気持ち」というものがあると思います。いよいよ2月。今年度のしめくくりが見えてきました。「つながり」や「感謝」といった、目にはなかなか見えにくいものを感じ、考える時期だと、そんなことを大雪の日に思いました。